

## ◆特集 放っておけない低賃金

# 生活はWワークで成り立っていた

山梨県

松島 慧

### Wワークを25年続けて

私は今年48歳になります。振り返れば25年ほどWワークを続けてきました。

高校時代から続けていた飲食店（以下A店）を、介護施設への入職をきっかけに一度辞めたのですが、半年ほど経ったころ給料が思ったほど手にできず（当時手取りで15万円ほど）、少しくらいならと思い、もともと働いていたA店でアルバイトを始めました。

慣れているA店という事もあり、介護施設の休みの前の日の夜、夜勤で働くという形でシフトも優遇してもらえました。当時20代だった自分は若さもあって、Wワークへの苦労はまったく感じませんでした。

30代になり、家族ができました。その頃もWワークは続いており、介護施設の収入は相変わらず、妻と二人の娘を養っていくためにはお世辞にも裕福とは言えず、アルバイトで15万円ほど稼いでおりました。生活はそ

のWワークで成り立たせながら、自分自身どちらの仕事にも不満なく生活しておりました。

いまでは多くの人が生活費を補うためにWワークを選択しています。私もその一人です。昼間は介護施設で働き、夜はA店でアルバイトをしています。この生活には多くの苦労もありますが、職種の違う二つの仕事から得るものも多く、人として成長させて貰っていると感じていました。

### 家族のために頑張る

しかし、ある日職場で上司に呼び出され「アルバイトをしているな」と注意を受けました。誰かが私がA店で働いているところを目撃し、会社に報告したとのことでした。当時の介護施設ではアルバイトが禁止されていました。禁止というよりルールがありませんでした。私は現状の収入を伝えアルバイトを続けたいという事を会



幸せな家族だんらんを夢見て（イメージ写真）

社の上司に伝え頭を下げました。

結果としてアルバイトは続けていいことになりましたが、まるで犯罪を犯したかのような扱ひを受け、誓約書を書かされました。「会社に迷惑をかけない、月の副収入は5万円まで」という内容でした。でも当時そ

の収入ではとても生活が成り立たず、以前のように休みの前はA店でアルバイトを続けました。

それ以降本業の介護施設では何かミスや失敗があるたびに「アルバイトなんかしているからだ」と叱責を受けるようになりました。体は苦しくつらい時もありましたが、本業も懸命に、穴の開かないように必死で頑張りました。何より家族のためにはと思えばどんなことでも頑張れました。

しかし会社からの「アルバイトなんかして」という

目が心に深く突き刺さるようになりました。自分の仕事で家族を養っていけない自分はダメな人間なんだ。そんな風に思うようになってからはストレスで体を壊すことも増えました。周りが怖くどうしようもない感情に襲われることもありました。特に介護施設でアルバイトのことを引き合いに叱責される時などは、消えていなくなっ

### Wワークなどしなくてもよい社会を

そのような時、支えになってくれたのは家族でした。妻や娘からの「ありがとう」また「苦勞を掛けて申し訳ない」という言葉は逆に自分を奮い立たせてくれ、なんとかここまで働くことが出来ました。

もうすぐ娘が高校を卒業し、長かったWワークも終わりを迎えようとしています。

振り返れば苦しくもあり、そこから得たことも多く、私にとってWワークは人生の一部だったように感じます。今の政治や経済の様子を見渡して、やはり一人の人間の力ではどうにもならないこともあるように感じます。子どもたちの世代には、Wワークなどしなくても、誰もが安心して暮らせる社会を訪れることを願っております。

（まつしま けい）